

世界に誇る奄美 胸に卒業

大高ジャーナル

世界自然遺産への風受け 安陵の地から飛躍せよ



© 浜田太

世界で奄美大島と徳之島だけに生息するアマミノクロウサギ。その生態は謎に包まれていた。写真家浜田太(65)は、1996年にクロウサギの子育て用の巣穴を発見。その独特な子育ての様子を世界で初めて写真に収めることに成功した。

御卒業おめでとうございます

平成28年度入学の大島高校第70期の264名の皆さん御卒業おめでとうございます。先輩方は平成最後の卒業生として、奄美市安勝の丘にそびえる大島高校普通科の学び舎を今日後にされます。

今、私たちの郷土奄美大島は、2020年5月の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」の世界遺産登録をめざし、今年2月1日に政府が国連教育科学文化機関(ユネスコ)に推薦書を提出しました。

世界の奄美として飛躍しつつある今、その島から巣立つ先輩たちが郷土で育まれた力を十分に発揮して未来に向けて活躍されることを願っています。大高ジャーナルでは、先輩方の卒業を祝して、奄美を代表する写真家の浜田太さんへのインタビューを実現しました。世界的に有名なアマミノクロウサギの撮影についてはもちろん、卒業生や在校生に向けた「写真家としてのメッセージ」を数多く頂戴しました。是非ご一読下さい。

大高ジャーナル
部長 吉永竜巳

発行所
鹿児島県立大島高等学校
新聞同好会
奄美市名瀬安勝町7-1

卒業記念特集号
1・2面…卒業生進路速報
★卒業記念インタビュー
クロウサギ写真家浜田太さん

3面…西郷隆盛と奄美特集
4面…卒業記念寮生座談会
5面…大高生冬季の活躍
6面…旅観ぐるぐるめ地



『手品師』増田常徳作
服部隆幸氏寄贈

昨年12月に本校に寄贈され美術室で展示している、「人間の二面性について」追究した代表作。



奄美大島=鹿児島県本土から南西約370km、面積712.35km²、広さ日本5位(本州等4島除く)の島、亜熱帯海洋性気候、奄美群島国立公園の一部

卒業生進路速報

平成30年度卒業生の進路状況は、2月16日現在で、4年制大学への合格が276名(72%)、短大が32名(8%)、専門学校67名(17%)、就職11名(3%)と、就職11名(3%)と4年制大を中心に多岐に渡っている。系統別にみると、看護師養成等の医療系への進学の人気は例年と変わらず高い他、教員養成系(幼保含む)や経済・経営系も人気で、資格取得につながる分野に人気が高い。また、進学先の地域も関東・関西・福岡など全国に展開しているのも特徴だ。

推薦やAO入試で、国公私立大では、筑波大(人間・心理)、長崎大(教育・学校教育)、鹿児島大(教育・学校教育)など12名が合格したほか、青山学院大(経済・現代経済デザイン)や、法政大(キャリア・キャリアデザイン)等の難関私立大にも合格した。進路指導部の渡辺豊隆先生は、「センター試験廃止後の新テストに向けて、思考力を問う新傾向の出題が始まっ

推薦・AOで難関大合格 全国に進学 高い医療系人気

「東京の大手出版社の仕事を辞めて、フリーの写真家をめざしたものの何を撮るべきか苦悩する日々。パリに武者修行に行っても挫折感にさいなまれ中東を放浪した。郷里の奄美に帰った1986年の7月、名瀬近郊の大浜海岸で家族と夕日を見ているときふと思った『アマミノクロウサギに会いたい』と。すべてはそこからでした。」

「写真は写すだけじゃなく、その背後にあるストーリーを伝えることが大切だ。写真を通じて、世界を旅する感覚を伝えたい。そのために、世界中を旅し、様々な文化や風景を撮影してきた。写真は私の生き生きとした世界を伝えるためのツールだ。」



奄美の原生林で撮影する浜田太さん



中山莉李(3-7)朝日中出身
推薦I 合格
心理学類

私は1年生の頃からカウンスラーを目指していた。心理学を志望し、筑波大の心理学類で合格した。合格のチャンスを増やすため推薦入試を受験し、入試内容は小論文と面接でした。小論文練習は「1のテーマを徹底的に調べ、自分の考えを整理することを繰り返しました。また、課題文が英語だったので、学校で配布された単語帳や文法書で疑問点を調べたり、自分で単語帳を作ったりして、英語の勉強は毎日続けました。合格出来たのは周りの支えがあったからこそです。支えてくれた周りの人達に本当に感謝しています。」

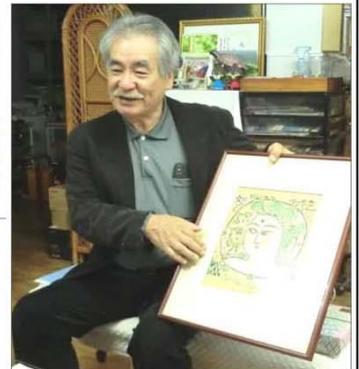
自分の進路についてよく調べることが大切だ」と。入試制度の変革に合わせた対策の重要性を強調された。

大高坂

3月は高校入試が行われる時期であり、多くの中学生にとっては、志望校合格に向けて受験勉強の追い込みの時期である。その中学生3年生を対象に2月21日から28日にかけて奄美市名瀬小浜町A.I.Sビルにおいて、「島スタバ円塾」が開催された。これは、1回の参加料100円で、勉強していてもわからないところがある中学生に、高校生と大学生が協力して教えるという企画で、今回で2年目だという。元々は茨城大学2年の大賀哲也さん(20)(大高88回卒)が発案したものだ。企画の目的は、勉強したくても一人で勉強できない環境の人や、家庭環境が原因で塾に通えない人が勉強できるようにするために参加した高校生ボランティアによると参加者も多く、盛況であったという。現在、全国的にも子どもが貧困や、子ども世代の経済格差の深刻さが叫ばれている。全ての子どもが意欲的に学べる環境の整備や、子ども同士が切磋琢磨して高めあう環境の整備が必要だ。▼「百円塾」の取り組みのように、学費意識を社会全体で支えていく仕組みが重要に思う。【最上】

卒業記念特別インタビュー

奄美はダイヤモンドの原石 磨き手も努力続けて



アマミノクロウサギの子育ての様子の撮影に成功し世界に発信し続けるはまだふとし

写真家 浜田太 さん(65)

1953年、鹿児島県大島郡龍郷町円生生まれ。1971年、県立大島高校商業科入学(学校再編で奄美高校商業科卒)
1975年、東京写真大学(現東京工芸大学)卒業後、講談社写真部を経てフリーランサー写真家となる。1979年末奄美へUターン。
1986年、国の特別天然記念物アマミノクロウサギの生態を撮り始める。1996年、世界で初めてアマミノクロウサギの子育ての撮影に成功。以後、数多くのテレビ番組に取り上げられる。
2017年、アマミノクロウサギが子育てする映像が高く評価され「ネイチャーズベストフォトグラフィーアジア」(国際賞)受賞。第68回南日本文化賞、第51回MBC賞受賞。

ウサギの授乳は2日に1回、2分間程度、巣穴の入り口を開けて行い、終わるとまた塞ぐという神秘的な生態でした。子育て期間はおおよそ40日、年1回子育てシーズンがあるということも分かりました。

Q 写真家をめざしたきっかけは何ですか?
A カメラマンに憧れ大学卒業後、講談社に3年勤めました。その時の仕事として、様々な出版物やコンサートホールでの撮影などとても楽しい仕事が多かったためです。



浜田さんが写真家として注目されるきっかけとなった観光ポスター「風になれ。」(1991年)当時、奄美と言えば「海」のイメージだったがあえて「森の妖精」をイメージして制作した。

夕日を見ていた時、「アマミノクロウサギに会いたい」という思いが頭をよぎり、当時あまり入る人もない夜の林道に、家族と一緒に車を走らせました。そして、ライトで目がルビー色に光るウサギと出会ったのです。全身に鳥肌が立ったのを今でも覚えています。そこから、自分の中の奄美を見つめなおす意味も含め、アマミノクロウサギを撮り始めました。

Q 今の高校生に対して伝えたいことは何ですか?
A 皆さん一人一人が、無限の可能性を持った奄美の宝です。何をやるにも石段を一段一段上がるように、目標に向かってコツコツ自分を磨く過程が、人間として自分自身を成長させると思えます。

新聞同好会では、卒業記念特別インタビューとして奄美を代表する写真家浜田太さんに取材することができた。浜田さんは、生態が未知なアマミノクロウサギの子育ての様子の写真や映像の撮影に成功され、2017年に世界的な写真・映像のコンテスト「ネイチャーズベストフォトグラフィーアジア」で受賞された。作品は、米国スミソニアン自然史博物館で年間放映された。今回は、高校生や若者に向けて、その人生経験から多くのお話をいただくことができた。

Q 「ネイチャーズベストフォトグラフィーアジア」で受賞された感想は?
A 30数年してようやく世界に通用する作品ができました。自分の故郷をテーマにした作品で評価を受けたことがうれしいです。

Q 動画の撮影に成功するまでの喜びや苦労は?
A 11月から12月、約1か月半くらい(山にもつ



米国ワシントンDC国立スミソニアン自然史博物館でスピーチしている浜田さん

て撮影しましたが、誰も知らないアマミノクロウサギの生きざまを「今、目前で見ている」と考えるとワクワクドキドキでした。冬、夜の山奥は気温は0度近くになるので寒いですが、それでも寝袋で凍えながらも「今日もいい撮影ができた」と。苦労よりも充実感のほうが大きかったです。

Q 撮影で分かったアマミノクロウサギの生態は?
A 一番大きな発見は子育てですね。自分の巣穴と別の土穴に子供を生み入口を塞ぎます。母



1987年に初めて巣穴からクロウサギが出る自然の姿の撮影に成功

識や技術を身に付けようと多くの卒業生は前向きに未来を考え島から羽ばたく。一方で、そのためのもはやりの経済的負担や、島内での若者の減少の高さを見ると、職しやすい環境づくりも大切に思わないだろうか。

奄美大島には豊かな自然や文化はもちろん、大島紬をはじめとした伝統産業など、世界に誇れる島の魅力がたっさんある。その魅力を地元で学問的に深め、発信することは、「郷土の環境保全」と「地域経済の持続的な発展」の両立にもつながるのではないだろうか。

「大高ジャーナル」(森) 実力のなさを痛感し、まさに「夢破れる」という経験をしました。その後、失意と絶望の中でシルクロードを放浪。イランで車が故障し、車を売り払って、何とかバスでインドまでたどり着き、その後日本に帰国しました。青春時代の苦い思い出です。

Q クロウサギの撮影を始めたきっかけは何ですか?
フリーの写真家として、なかなか自分のテーマが見つからないままに1979年末、奄美にUターンしま

した。その頃の奄美では、森に国の特別天然記念物等が棲息しているにも関わらず、ハブがいる奄美の森は、一銭の価値もないと全く評価されず、大森林伐採等で貴重な生き物たちは、絶滅の危機に瀕していました。

しかし、1984年、英王室のフィリップ殿下が奄美を訪れ、「奄美の自然はスペクタクル(壮観)だ」と語られた頃から、人々の意識も変わっていききました。私達は外からの評価でこの奄美の素晴らしさに気付かされてきたのです。

その後の、1986年7月、名瀬近郊の大浜海岸で、自分自身の未来を知ること、自分を知ることは自分を知ることに繋がるといふふうに私は考えています。

奄美は「ダイヤモンドの原石」です。原石は磨かないと輝きません。磨き手も常に高い技術が求められます。世界自然遺産候補地の素晴らしい郷土の自然を、皆さんの手で磨きかけ、守り育み、世界に誇れる奄美にしたいです。

論説

環境と経済を両立した世界自然遺産登録 — 総合大学設置を通じたアイデア —

世界自然遺産登録に向けて再挑戦が始まった奄美大島。昨年5月の世界自然遺産登録延期勧告以来、奄美大島に足りなかったものを模索しつつ、官民が連携して様々な取り組みを進めてきた。その中で注目されるキーワードは、「郷土の環境保全」と「地域経済の持続的な発展」と感じる。

「郷土の環境保全」は言うまでもなく、世界自然遺産登録の最重要事項であり、私たち住民一人一人も取り組まなければならないことだ。

しかし、ここ数年アマミノクロウサギのロードキルなど、貴重な自然見事に安易に原生林に足を踏み入れることによる生態系への被害が多発している。また、最近徳之島の山中で絶滅の恐れのあるツルランが百株以上盗掘されたことも象徴的だ。

その一方で、観光客に対する金作原のガイドの仕組みが整いつつあることや、貴重な生態系を破壊する外来種であるマンギースの根絶に「地域経済の持続的な発展」に繋げることも大切だ。私たち島の高校生は約80%が進学・就職のために島外へ出る。もちろん、外の広い世界を知り、高度な専門的知

識や技術を身に付けようと多くの卒業生は前向きに未来を考え島から羽ばたく。一方で、そのためのもはやりの経済的負担や、島内での若者の減少の高さを見ると、職しやすい環境づくりも大切に思わないだろうか。

奄美大島には豊かな自然や文化はもちろん、大島紬をはじめとした伝統産業など、世界に誇れる島の魅力がたっさんある。その魅力を地元で学問的に深め、発信することは、「郷土の環境保全」と「地域経済の持続的な発展」の両立にもつながるのではないだろうか。

「大高ジャーナル」(森) 実力のなさを痛感し、まさに「夢破れる」という経験をしました。その後、失意と絶望の中でシルクロードを放浪。イランで車が故障し、車を売り払って、何とかバスでインドまでたどり着き、その後日本に帰国しました。青春時代の苦い思い出です。

Q クロウサギの撮影を始めたきっかけは何ですか?
フリーの写真家として、なかなか自分のテーマが見つからないままに1979年末、奄美にUターンしま

識や技術を身に付けようと多くの卒業生は前向きに未来を考え島から羽ばたく。一方で、そのためのもはやりの経済的負担や、島内での若者の減少の高さを見ると、職しやすい環境づくりも大切に思わないだろうか。

奄美大島には豊かな自然や文化はもちろん、大島紬をはじめとした伝統産業など、世界に誇れる島の魅力がたっさんある。その魅力を地元で学問的に深め、発信することは、「郷土の環境保全」と「地域経済の持続的な発展」の両立にもつながるのではないだろうか。

「大高ジャーナル」(森) 実力のなさを痛感し、まさに「夢破れる」という経験をしました。その後、失意と絶望の中でシルクロードを放浪。イランで車が故障し、車を売り払って、何とかバスでインドまでたどり着き、その後日本に帰国しました。青春時代の苦い思い出です。

Q クロウサギの撮影を始めたきっかけは何ですか?
フリーの写真家として、なかなか自分のテーマが見つからないままに1979年末、奄美にUターンしま

識や技術を身に付けようと多くの卒業生は前向きに未来を考え島から羽ばたく。一方で、そのためのもはやりの経済的負担や、島内での若者の減少の高さを見ると、職しやすい環境づくりも大切に思わないだろうか。

奄美大島には豊かな自然や文化はもちろん、大島紬をはじめとした伝統産業など、世界に誇れる島の魅力がたっさんある。その魅力を地元で学問的に深め、発信することは、「郷土の環境保全」と「地域経済の持続的な発展」の両立にもつながるのではないだろうか。

「大高ジャーナル」(森) 実力のなさを痛感し、まさに「夢破れる」という経験をしました。その後、失意と絶望の中でシルクロードを放浪。イランで車が故障し、車を売り払って、何とかバスでインドまでたどり着き、その後日本に帰国しました。青春時代の苦い思い出です。

Q クロウサギの撮影を始めたきっかけは何ですか?
フリーの写真家として、なかなか自分のテーマが見つからないままに1979年末、奄美にUターンしま



記者たちの質問に情熱的に回答して下さる浜田さん(名瀬幸町の浜田さんの事務所にて)

寮生の卒業記念座談会

寮の仲間との日々
高校時代の宝物

各地から大高での学びを志す生徒たちのため、本校には男子寮「青雲寮」、女子寮「白菊寮」があり、平成30年度は、男子49名、女子56名が寝食をともにして学校生活を送り、3あふれる思いを語ってもらった。

入寮時の不安
先輩と解消

Q 入寮した時はどんな気持ちでしたか?
A やはり不安でしたね。同年の人と同室にはならないので心配でしたが、同室の先輩がやさしくて良かったです。(名古)

バーベキュー

Q 寮ならではの行事などありますか?
A バーベキューは楽しかったです。男子・女子合同です。1年生はなぜかおしゃれをして参加すると

普段の生活が
一番楽しい

Q 寮生活で楽しかったことは何ですか?
A 普段の日常生活そのものです。休日に、友達と外食に行くのも結構楽しいです。

大高坂の桜が映える小川

大高坂の桜が映える小川(立山)のせせらぎが聞こえる(雲寮 男子寮)



今回、卒業記念座談会に集まってくれた5人。男子手前から、牧野海音君(3-3赤木名中出身)、泊広明君(3-3笠利中出身)、時田哲太君(3-4田検中出身)。女子手前から、立山紫音さん(3-3古仁屋中出身)、名古のかさん(3-4面縄中出身)。



いも一れ奄美! 魅力発掘 Vol.2

昨年の11月場所、奄美大島出身の力士、里山(37)が幕下で勝ち越しを決め、そのまま現役を引退し、年寄・佐ノ山を襲名した。身長176cm、体重約12

奄美といえれば相撲

初土俵は2004年3月。それまでは日本大の相撲部所属し、全国大会では上位に入賞するなどの活躍

郷土出身力士 里山の引退

た。里山の取り口は、島相撲と呼ばれる奄美独特のもので、立ち合いで頭から当たっていき相手の懐に潜り込む。自分の有利な形になるまでしぶとく耐え、頭を軸にして投げ、自分よりよはるかに大きい相手と相撲を取る幕内ではこの取り口は首への負担がとて



2019年9月28日(土) 会場:両国国技館

星山引退 披露大相撲 力士の活躍



寮からの桜が美しい白菊寮(女子寮)

寮生活で学んだことはたくさんあるけど一番は「一人への気遣い」かな。受験勉強をお互いしていたのでなおさらですね。衣食住をともにしているって、友達以上の関係になって、友達の家族のようになれます。



食事は男女一緒に食堂で。人気のメニューは、チキン南蛮、そぼろご飯etc...



現在2-3の担任で水泳部顧問を務める

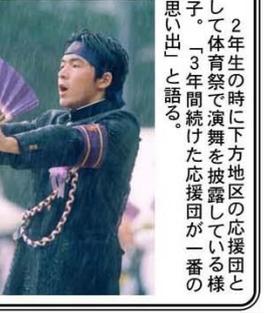
今回からスタートする新連載「あの頃の大高」。創立118年をむかえる本校の卒業生の方に当時の大高高校生の時の思い出を語っていただきます。



川畑祐一郎先生 平成12年入学 普通科 第54期生 小宿中出身 現在、本校国語科教諭

Q 当時の学校の様子は? A 今の校舎が建設され10年経たないぐらいの頃で、とても校舎・教室がきれいでした。全校生徒が千人近くいて、全校朝会では体育館から生徒があふれそうでした。2年生の時に創立100周年を迎え、生徒・教

Q 当時の奄美の様子は? A 市街地の雰囲気は今とずいぶん近くなっている時期でした。私が高校生だった時にT・S・U・T・A・ジョイフル・ミスタードーナツなど、本土資本の店舗が進出してきて、話題になりました。



2年生の時に下方地区の応援団として体育祭で演舞を披露している様子。3年間続けた応援団が一番の思い出と語る。



2年生の時に下方地区の応援団で演舞の先頭を務める様子。写真後方に、今はない土俵が見える。

Q 学校の思い出を教えてください。 A 一番強烈に覚えているのは、3年間続けた応援団ですね。三方(みかた)地区から分裂したばかりの下方地区応援団でした。毎年体育祭本番まで全力で、仲間たちと本当に一生懸命な時間を共にしていたので、「何があっても絶対に後悔しない」という思いでした。3年の時は団長を務めました。本番の後、テントの前に退場した団員たちの前に立って、次の地区がフィールドで演舞しているのを見ていた時、後ろで強・部活・行事に頑張っている。 (上月)

ラグビー 県新人戦2位

県新人戦ベスト4

男子ハンドボール

冬季の主な活躍

陸上部(第66回県下一周市郡対抗駅伝競走大会出場)中村康明(2-13小宿中) 新体操部(大島地区高校体育大会)ラフの部 優勝 久保紗英(2-1金久中) ホールの部 優勝 桑原舞(2-14金久中) 個人総合 優勝 久保紗英 ラグビー部 (県高校新人体育大会)グレイフットボール競技)10人制の部 2位 男子バレーボール部 (県高校新人大会) ベス

ト8 女子バレーボール部 (県高校新人大会) ベス 俳句 優秀賞 泰文奈

吹奏楽部 (全九州高校総合文化祭 鹿児島大会) 文芸部門 俳句 優秀賞 泰文奈

ト8 男子ハンドボール部 (県高校新人大会) ベス

ト4 文芸部(県高校生文芸コンクール) 文芸雑誌 俳句 優秀賞(さくらめ) 短歌部門 優秀賞 松田詠真(1-6朝日中) 俳句部門 優良賞 森夢斗(3-5朝日中) 俳句部門 優良賞 泰文奈(1-3金久中) 詩部 優良賞 松田詠真

ト8 吹奏楽部 (県新人戦徒作文コンクール) 学校賞 声楽作品の部 入選 久保紗英(2-1金久中) 器楽作品の部 入選 糸健哉(2-1朝日中) (県吹奏楽ソロコンテスト) トランプ部門 金賞 橋口結(1-5金久中) フルート部門 金賞 浜田実夢(1-7朝日中) 書道部(大東文化大学 全国書道展) 全国書美



県高校新人大会で準優勝したラグビー部。県立サッカーラグビー場で表彰式後の1枚。

吹奏楽 県ソロコンテスト2名金賞

昨年6月の県高校総体の授賞式後の写真。(県体育館)



Q 空手を始めたきっかけは何ですか?
A 4歳の時に、姉と一緒に剛柔流の道場に見学に行ったことです。

空手道部

本校注目の生徒をコースアップする「大高一番星」

きよせかんと 清瀬寛汰君 (3年4組) 名瀬中出身

Q 特に印象に残っている試合は何ですか?
A 平成29年10月の県新人大会に取材しました。瀬寛汰君(3-4)道部キャプテン清瀬君(3-4)が、大会の決勝戦で、序盤から点を取られてリードされていましたが、残りの2秒で逆転し優勝することができました。

Q 得意な技は?
A 組手で左の上段突きです。

Q 普段の練習の工夫は?
A 練習時間以外でも自主練習を努力しました。

Q 空手の魅力は?
A 蹴りがみぞおちに入った時などは、相手と本気ですつかることは楽しいですね。

Q 進学の大学でも空手を続けるという清瀬君。「天学ではさらにレベルが上がると、自分がここまで通用するかチャレンジを見てみたい」と更なる活躍に期待している。今後の活躍に期待したい。(中村康明)

県下一周駅伝8年ぶり力走



県下一周駅伝2日目の大島の5区(8.5キロ)を走る中村康明君(2-3)本校陸上部主将・本紙記者は大島高校から県下一周駅伝への出場は8年ぶり。憧れの舞台を精一杯駆け抜けた。区間記録は29分20秒。

東京成徳高校生部活動等で交流

1月25日(金)の放課後、東京成徳大学高等学校(東京都北区)の生徒10名が本校(来校)体育系・文化系あわせて11の部活動と生徒会執行部の活動に参加して交流を深めた。この企画は、東京成徳高校の「リーダー」に必要問題解決能力やコミュニケーション力の育成を目的とする「泊3日」の「リーダー」の日程の一部で、本校は是の初日の訪問となった。当日の昼過ぎに飛行機で奄美に到着したばかりで、緊張の面持ちの東京成徳高校の生徒たちも本校



女子バレーボール部との交流練習の様子(大高ブログより)

生徒とすぐに打ち解け、部活動でお互いに声を掛けあい、汗を流す姿が見られた。

女子バレーボール部の練習に参加した、女子バレーボール部のキャプテンの西條友唯さん(東京成徳高校2年)は、「大島高校の部活動はまとまりがあり、一つ一つの練習に目的を持って取り組んでいる。成徳ももっと明確な目標を持つべきだ。」と感想を述べた。(森山)

書道部

特に、全国大会への進出を決めた重原さんは「周りの緊張感にのめられないように、精神を落ち着かせて臨んだ。集中して書くことが

今回の県大会で、自分のできることを発揮できたと思う。」と大会を振り返る。

今回、県大会で高文連賞に輝いたのは、重原さん(2-1龍南)は、今(2-12朝日中)・伊藤真樹さん(2-6朝日中)・富田巴菜さん(2-12小宿中)の4名だ。

県高校総体(きん)大会が平成30年11月6日に鹿児島アリーナで行われ、本校から4名の書道部員が賞を受賞した。さらには重原日和さん(2-1龍南)は、今年7月27日から佐賀県で行われる全国高校総合文化祭への切符をつかんだ。そんな書道部の練習にお邪魔して、大会の感想や今後の目標について聞いた。

次は団体で全国制覇

重瀬の街が一望できる芸術棟4階の書道室では、団体での全国制覇を目指して日々集中した時間が流れている。

重瀬の街が一望できる芸術棟4階の書道室では、団体での全国制覇を目指して日々集中した時間が流れている。

重瀬の街が一望できる芸術棟4階の書道室では、団体での全国制覇を目指して日々集中した時間が流れている。

「空腹になる余計なことを考えず、集中して練習しよう」と、大会前にはとにかく食べた。部長の浜田真句さん(2-1)は大会前の様子を語る。「今後の目標は、全日本高校大学生書道展で全国制覇すること。現在2年連続で全国9位に入賞している。今年もこの目標を目指したい。」と語った。先生と部員との強い信頼関係、部員同士の仲の良さが際立つ書道部。今後の活躍が楽しみだ。(栄)

顧問の池田光磨先生は「生徒たちを見ているように見えるように、練習を頑張っている。集中力が大事な書道。」「空腹になる余計なことを考えず、集中して練習しよう」と、大会前にはとにかく食べた。部長の浜田真句さん(2-1)は大会前の様子を語る。「今後の目標は、全日本高校大学生書道展で全国制覇すること。現在2年連続で全国9位に入賞している。今年もこの目標を目指したい。」と語った。先生と部員との強い信頼関係、部員同士の仲の良さが際立つ書道部。今後の活躍が楽しみだ。(栄)



全国総文祭に出場する重原日和さん(2-1)



「創作の人は目頃から字を引く速さにも気を付けている。」と浜田さん。

全国総文祭に出場する重原日和さん(2-1)は、「普段の練習の雰囲気は和気あいあいとしていて、部員みんな仲が良いが、仕上げに入ると集中するため周りがよくなっていく」と、書道部の強さの秘訣を聞くと「大島の書道部員はほとんどが初心者なので、他校の書道部でも専門の少ない隷書・篆書に力を入れている。しかし、隷書・篆書は独特な書体なので、生徒たちは書き慣れるまで本当に頑張っていた。」と池田先生。

※記事中の本校生の個人名に併記した中学校名は、出身中学校です。

